

令和7年度 大山町議会 事務事業評価シート
《令和6年度実施事業》

NO 4/4

教育民生常任委員会

評価事務事業名	診療所費
---------	------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由 3診療所とも、常勤医師がかかりつけ医として住民のニーズに応えるために、外来診療はもちろん高齢者への訪問診療、予防医療など住民の健康管理に努めており、住民の安心・安全を保障している。 一方、経費削減と医療業務の効率化を実現するために、医療機器や人員の効率的な配置、人材の長期的ビジョンの構築、組織運営体制の整備などが課題である。	
	72 / 100点			
	参考値			
	高 90点	低 60点		

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

高齢化と過疎化が進む大山町であるが、診療所は町民の命と健康を守る地域医療の拠点として、「住民に寄り添って持続可能な医療体制の構築」を図るために、経済性を優先することなく、医療の質を高めるためのコストの最適化を進める必要がある。以下の通り、「コスト削減」等について提案する。

- ①ジェネリック薬品のさらなる活用
- ②過剰在庫や使用期限切れ医薬品の廃棄がないよう在庫の適正化
- ③適正な価格で仕入れをするよう、卸業者と交渉したり複数業者による競争原理を働かせたりする
- ④胃カメラ・エコーなど各診療所にある医療機器の適切な配置と運用
- ⑤医師・看護師・医療事務の適正な配置
- ⑥大山口診療所心療内科の将来的な廃止が考えられる
- ⑦診療所再編案に提示されているように、まず、「大山診療所+名和診療所サテライト」案を住民の納得と合意を得ながら進める
- ⑧オンライン診療による訪問看護の充実やデマンドバスによる薬の宅配など医療サービスの充実
- ⑨1つの拠点施設(診療所)+2~3の訪問看護ステーション化
- ⑩サテライト化が難しいなら、民間移管などの議論も必要ではないか
- ⑪診療所を効率的に運営するために、目的だけでなく目標を明確にする
- 以上の提案を推進するために、
- ⑫事務長の配置など診療所の組織運営体制の整備が急がれる

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

提言に対する町執行部から回答のとおり。

6. 委員会の総括

委員会の提案に対して、概ね前向きの回答が行われており評価したい。

ただ、次の2点について付記しておく。

- ①診療所再編に当たっては、3診療所が連携してグループ診療を進めるために、電子カルテのクラウド化・DX化が重要である。
- ②診療所運営の目標値は、今回の診療報酬改定3.09%と物価高騰・人件費上昇を考慮して設定すべきである。

診療所再編については住民への意見聴取と丁寧な説明に配慮し、診療所運営の改革が早期に実践化されることを注視する。

今後とも、町営診療所が住民の命と健康を守るために、必要な医療サービスが安定的に提供され、地域住民が安心して住み続けられるよう機能していくことを期待したい。

評価事務事業名	名和マラソンフェスタ
---------	------------

3. 委員会の評価

委員会の評価	評価点		委員会の評価理由 名和マラソンフェスタは、地元町民が愛してきた催しとして一定の意義がある。一方で、目的や成果指標が不明確であり、事業効果を判断しにくい状況にある。町民参加の減少や職員・ボランティア依存の運営体制、実質的な経費の高さなど課題も見られる。今後は、大会目的を整理し、関係者間で運営体制や事業の方向性を検討が必要である。	
	61点 / 100点			
	参考値			
	高	低		
	80点	35点		

4. この事務事業に対する委員会の改善意見の提案

本事業の今後の実施については、以下のような改善が必要と考える。

- 目的に関して
 - ・大会目的の明確化、参加者数や満足度などの目標値・結果を設定し、成果を可視化する。
- 町民の健康増進に重点を置く場合
 - ・町民の健康増進を目的とする場合は、町民参加を促進する方向でウォーキングや誘客など再設定する。
- 観光振興に重点を置く場合
 - ・観光振興として継続する場合は、町内事業所の利用(宿泊や飲食、物産)を促進し、観光振興につなげる。
 - ・業務の一部委託や地元出店ブースの拡充により地域経済への波及効果を高める。
- 運営体制に関して
 - ・町職員の動員を減らし、補助金を活用して外部人員を確保する体制を検討する。
 - ・事務局業務を陸上競技団体や地域自主組織など民間団体などへ移管し、適正な規模の補助金で支援する。

5. 事務事業評価に対する行政の対応状況

名和マラソンフェスタは目的を「健康増進・参加者相互及び地域住民とのふれあい・観光促進」として、実行委員会が実施しているものです。

目的のどの部分により重点を置くかは特に定めておりませんが、満足度や参加者数の目標値設定は必要だと考えます。

また、事務局については現在大山町商工観光課が対応しておりますが、事業主旨をご理解いただいたける団体や個人の方に事務局機能を担っていただくことがより良いことであると認識しているところです。今後ともそのような適格人材の情報収集に努めてまいります。

なお、本事業へは過去に町より経費補助を行っていたところですが、現在は参加費等により運営可能な状況であり、補助金等支出は行っておりません。一方で関連団体や町職員の動員により当日運営されているところであり、町が事務局を担う動員を伴う事業等全体について、今後事業実施体制の整理は必要な状況と考えます。

6. 委員会の総括

名和マラソンフェスタは、一定の実績はあるものの主目的が不明確となり、町民の健康増進、参加者相互及び地域住民とのふれあいに向けた取り組みが不十分な状態にある。

今後、周辺自治体のマラソン事業も参考に、誰のための何のための事業であるのか事業を再度整理し、目的にあった規模や内容、成果指標、事務局移管や事業実施体制など持続可能な再設計が必要である。今後も継続調査をする。